



## 「女性研究者にインタビューしてみよう」

この事業は、両校の生徒でグループを組み、女性研究者にインタビューを行い、そこでの学びをまとめて全校、全国の理系を志す児童生徒の皆さんに向けて発信するプロジェクトです。今回は、生物班 1 年生 6 名が令和 7 年 8 月 14 日に行った、日本大学の鈴木チセ教授へのオンラインインタビューの内容をご紹介します。

### 【鈴木チセ先生について】

東京大学大学院をご卒業され、大学院では菜の花のめしべの先端にあるタンパク質について研究をされていました。

農林水産省入省、のちに国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構に所属されていました。2021 年に日本大学の教授に着任されており、現在は、日本大学生物資源科学部食品開発学科の教授を務められています。

### 【Q&A】

Q.研究内容やテーマについて教えてください。

A.微生物間の相互作用に関する研究を行っています。味噌の微生物に関する研究の一環として、塩分の高い条件下で他の酵母を殺す酵母についても研究しています。殺す物資は何か?に興味を持っており、タンパク質化学に関する研究を行ってきました。

私の研究では、面白さを重視しています。また、自由な発想を持ち、一つの研究を深めること、情報の正確性も大切にしています。困難に直面したときには、一人で悩みすぎずに、適切な人に協力をお願いすることも大切ですね。だからこそ、研究仲間を増やすことは意識しています。



Q.女性研究者としての苦勞などはありますか。

A.公務員時代には、男女差別などを感じることはあまりありませんでした。女性研究者が少なく、母数が小さいため、仕事を任せられることは多い印象ですね。「男性研究者」という言葉はあまり使われていないのに、「女性研究者」という言葉が使われることに、違和感を覚えます。

Q.研究者を志したきっかけや、研究を続けるモチベーションについて教えてください。

A.私は、大学院での修士課程 2 年間で、研究に本格的に取り組み始めました。自分の興味のある分野を研究すること、面白いと思う事柄を追究することがモチベーションになっています。社会貢献や研究の実現性を短絡的に意識するのではなく、自分の興味を追究することが、とても重要だと考えています。

Q.研究を続ける上で大変だったことや、失敗などはありますか。

A.大腸菌に遺伝子を入れる研究では、うまくいかない経験が多くありましたね。研究は、意外とうまくいかないことが多いですが、失敗も含めて、柔軟な発想を持ち、物事を深く掘り下げることが重要だと思います。また 1 人でプロジェクトを進めた経験もありますが、とても大変だったことを覚えています。一緒に研究する仲間の存在は大事ですね。

Q. 学生へのアドバイスや、今やっておいた方がいいことなどがあれば教えてください。

A. 国際的な視野を広げるために、英語の勉強は大切だと思います。国際学会に参加して、視野を広げてみるのもいいかもしれません。学生の皆さんが研究をするときには、情報が確かなものかを調べながら、独自の視点で徹底的に追及することが大切です。また、研究仲間を増やし、適切に協力を得ることも、学生のうちに経験しておくべきです。私は、色々な科目で外部の先生をお呼びすることがありますが、そのほとんどを高校時代の後輩にお願いしています。専門の近い大学の同級生と違って、高校時代の友人や先輩、後輩は幅広い分野で活躍しています。それぞれの活躍を学生さんたちにも知ってもらいたいので、私は外部の先生としてお呼びすることが多いです。研究仲間だけでなく、高校の先輩後輩との深い絆を作っておくことも大切です。

## 【感想】

・1人の研究者として、苦労や失敗も受け止めながら、前向きに進んでいく先生の姿に、感銘を受けました。また、先生のお話から、固定概念を打ち破り、柔軟な考え方で生活していくことが大切なのだと気づきました。私も、これからは人脈を大切にしていきたいながら、さまざまな角度で物事を見つめ直すことを大切にしていきたいと思います。また、自分の将来のために、興味のある分野は何なのか、自分自身が面白いと感じるものは何なのかをよく考えていきたいと思っています。(お茶の水女子大学附属高等学校 A.O)

・今回のインタビューを通して、先生が性別に関係なく、1人の研究者として日々努力されている姿に強く感銘を受けました。また、自分の興味のあることにとことん向き合い、深く関わっていくことが、研究を進める第一歩になるということもわかりました。この経験を通して、自分自身も好奇心を大切に、挑戦を続けていきたいと感じました。(都立戸山高校 J.D)

・女性研究者として働く先生の視点からお話を聞かせていただけたのは、とても貴重な経験になりました。先生が働く中で、女性だからという理由で差別を感じたことはないと言われ、少し意外に感じました。研究者という仕事はまだ男性社会であると聞くことが多かったのですが、驚くとともに、女性でも差別されずに働ける環境があるのだと感じました。一方で、先生もおっしゃっていたように「男性研究者」という言葉は使われないのに、「女性研究者」という言葉が使われている点には、私も違和感を覚えました。差別はなくとも男女を分けて考える視点がまだまだ残っていることだと思うので、性別ではなく、その人の能力や情熱に目を向ける人が増えるといいなと感じました。(お茶の水女子大学附属高等学校 M.H)

・今回のプロジェクトで、多くの研究の場でご活躍されてきた先生のお話を聞いたことは、とても貴重な経験となりました。また、「面白さ」に重点をおいて研究を進める姿勢は、より深く充実した研究を継続的に行う上で欠かせないものだと思います。私自身も、従来の枠組みに依存せず、多様な視点から考え続けることを大切にしていきたいです。そして、仲間を大切に、ここでの学びを課題研究や探究活動、日頃の学校生活に生かしていきたいと思っています。(お茶の水女子大学附属高等学校 K.T)

・先生からお話を伺い、研究職の苦労や向き合い方を学ぶことができました。特に、交友関係を広げていくことが大人になっても大切だということが印象的でした。私も高校生のうちから、お互いにフィードバックをし合い、研究の精度を高めていきたいです。(都立戸山高校 S.N)

・お話を伺い、失敗がありつつもその大変な経験を活かし、興味を持ったこと、面白そうなことを追い求めていく先生の研究への姿勢がとても印象的でした。また、社会の考え方を鵜呑みにするのではなく、柔軟な発想を持つことの大切さを学びました。私自身も、仲間をより大切にしていきつつ、多角的な視点で情報などをとらえていきたいと思います。今は浅く広く色々なことに興味があるので、どんなことに自分はとても楽しいと感じるのかを大切に生活していきたいと思います。(都立戸山高校 H.E)

《鈴木チセ先生、インタビューへのご協力ありがとうございました!》